

片山かおるの 小金井まちづくりプラン

2013

子どもが暮らしやすい町は、
おとなも暮らしやすい！



1 子どもの権利とおとなの人権 ～子どもの権利条約・条例を活かし 自分らしく暮らせる町に

- ★子どもの意見を市政に反映する「青少年議会」復活。
- ★いじめ問題にも対応。子どもの権利を守る「子どもオンブズパーソン」を。
- ★スクールソーシャルワークで子どもの貧困問題を解決。
- ★就学援助と教材費の公費負担を増やし、義務教育の無償化をめざす。
- ★子どもの権利に関する条例の推進計画をつくり、子どもの権利委員会でチェック。
- ★学童保育所、児童館、集会施設、公園などを、子ども主体で使える場所に。
- ★認可外の保育所と認可保育所の格差を是正。詰め込み保育ではなく、子どもに居心地のよい小規模異年齢保育を。
- ★児童発達支援センターを、インクルーシブ社会の発信拠点に。
- ★生活困窮者を専門家と市民が連携して支援。貧困の連鎖を防ぐ。
- ★震災避難者の孤立化を交流会で防ぎ、個別ニーズにあわせ継続的な支援を。

2 民主主義を活かしきる ～開かれた市政をめざす

- ★市民にわかりやすく、より開かれた議会にする「議会基本条例」を制定。
- ★市議会が学校などに出張して、子どもたちと意見交換する会を。
- ★審議会の報告会で情報を共有し、市民力をパワーアップ。
- ★議員の審議会参加は極力減らし、報酬の二重取りは廃止。
- ★教育委員を公募にするなど民主的に選ぶシステムづくり。
- ★「市民協働条例」「協働契約」を整え、市民主体の市政運営を。
- ★非常勤職員の待遇を改善。「公契約条例」による公正で男女平等な労働環境を市役所から発信。

3 足もとからの平和 ～小金井から平和な世界づくりを発信

- ★戦争体験者の記憶を次の世代へ語り継ぎ、戦跡などの記録を残す。

- ★市民とともに平和憲法を学び、平和週間を平和映画祭などに拡大。
- ★世界各地の紛争・戦争の停止または抑止をいち早く発信。
- ★学校で子どもが主体の平和教育を。日の丸・君が代などの強制をなくし、教育現場に自由な空気を。
- ★市民の国際交流団体をネットワーク。中東和平プロジェクトを市民参加で。

4 多様で自由な表現を認めあう ～地域で暮らしやすい路地文化の町づくりへ

- ★大規模な駅近再開発はやめる。買い物難民をつくらない、歩いて暮らせるまちに。
- ★路地で子どもが遊べ、自転車暮らしが快適にできるよう、生活道路への車の制限と徐行規制を。
- ★社会教育機関（公民館、図書館、集会施設など）の連携で、市民活動を応援。
- ★公民館 HP をつくって講座の記録を発信し、市民の知の図書館に。
- ★市民団体やNPOなどに市民税額の1%を支援できる「1%支援制度」を。
- ★はけの森美術館とアートフルアクションを表現文化発信の拠点に。市内アーティストのアーカイブを。
- ★ギャラリーやライブスペース、ミニコミなど市民発信の文化で町を活性化。
- ★市がコーディネートして空き家や空きアパートを使った安い賃貸住宅を。
- ★空き地や道ばたや庭先での無農薬有機栽培の畑づくりで市民の交流を。
- ★物々交換や地域通貨で人と人の交流を増やし、循環型の長屋の暮らしを。

5 きれいな川や木と土と空気のもとで 暮らしたい ～放射能汚染や脱原発、地球温暖化への 小金井なりの取り組みを

- ★「脱原発都市宣言」を市民参加で制定。「脱原発首長会議」への参加。
- ★アンペアダウンを勧め、市民ファンドの再生可能エネルギー発電所を。
- ★環境配慮住宅型研修施設（旧雨デモ風デモハウス）を通して、小金井をエコからエクセルギーの環境先進都市に。
- ★市民測定の放射能測定室、消費者庁貸与の測定器を活用。環境中の放射能測定も行い、内部・外部被ばくを防ぐ。
- ★市内事業者と連携して放射能測定を進め、流通段階でのチェック体制を。
- ★学校での生ごみ処理機を乾燥型から省エネルギーの消滅型タイプに。
- ★「ごみゼロ・ウェイスト宣言」。食器リサイクル、剪定枝やくつ・かばんの回収と資源化。
- ★ごみの減量や処理について、市民参加で検討する場を。
- ★無農薬有機栽培の農家、市民農園を。オーガニックな学校給食や飲食店での需要増加で地産地消の土台づくり。



福岡県大木町の循環センター「くるるん」にて

可燃ごみの処理をどうするか、まだ確定したわけではなく、市議会は市長と行政の交渉を見守る状況です。はつきりしていることは、ごみ減量を進めていくこと。市民参加でいろんなアイデアを出し合い、行政と共に実践していくことが必要です。市民主体でこなっている食器リサイクルを市の業務にできないか、生ごみ処理を消滅型など都市でやりやすい方法でおこなえないか、市民から様々な提案が寄せられています。

福岡県の大木町では資源循環型のまちづくりを進め、海外からも視察が相次いでいます。生ごみとし尿処理のためのバイオマス資源エネルギー施設を町の中心に置き、おしゃれな地産地消レストランも併設し、環境教育と観光の目玉としてにぎわっています。

同じ規模の自治体で比べると、ひとりあたりの可燃ごみ量が全国で2番目に少ない小金井市から、ちょっと視点を変えて、市民参加の環境先進施策を発信したいですね。

ごみ処理問題を通して、
市民参加の
環境先進施策を！



片山かおるの ちょっとカエル通信

2013年2月24日発行


特別号 vol. 2

原発のない
平和な未来を
選びとろう！


無所属
市民派

片山かおるがたいせつにしたいこと

子どもの権利とおとなの人権
民主主義を活かしきる
足もとからの平和




「平和」「人権」「民主主義」を
基本理念に置き、
市民がいつも市政のど真ん中に
いられるように、
議員として市民の下支えとなり、
市民発案を応援します。
さまざまな立場の人が参加しやすい、
私たち自身の手で自治する、
市民主体の
小金井にしていきたいと思います！



片山かおる

片山かおるといっしょにかえる小金井の会へのお誘い


会費は年1口2,000円。カンパ大歓迎！
郵便振替口座 00120-5-357785
「片山かおるといっしょにかえる小金井の会」



片山かおると
いっしょにかえる小金井の会

〒184-0012 小金井市中町3-10-10-103
tel&fax: 042-316-1511
e-mail: office@katayamakaoru.net
http://katayamakaoru.net

twitter, facebook →「片山かおる」で検索！



小金井市議会
議員選挙

3/24



片山かおるプロフィール

1966年、長崎県生まれ杉並育ち。都立豊多摩高校卒業。中2と高2の男の子とパートナーと猫と共に前原町在住。映画配給・上映などに携わる。2009年より市議会議員。市民自治こがねい共同代表、全国フェミニスト議員連盟共同代表、放射能問題に取り組む親たちと共に活動中。



わたしたちも
応援します！

矢島床子

子産み・子育ては、母が豊かでなければ子どもも家族も幸せにならない。
この多摩地域で生き抜くために、片山かおるさんを応援しましょう！
(母と子のサロン 矢島助産院 助産師)



イトー・ターリ

小金井市男女平等基本条例の『市民の定義』には「性的指向にかかわらず市民である」と記されています。これを見て、勇気が湧いてきます。小金井には、性同一性障害の人たちが印鑑証明をとるときに性別を書く欄を削除するという、全国にさきがける条例が画期的に施行されています。市議の方々の努力と市民の望みが実を結んだ例です。性は見た目ではなく、その人自身が決定するもの。政治と市民の関係はこのような変化を作っていくところにあり、市議はその間に立つ人。セクシュアルマイノリティに限らず、不便さや不条理を感じる人の声を聞く活動をしてほしい。クラスに3名は居ると言われるセクシュアルマイノリティの子どもたちの声を聞いて、彼らがいきいきと生活できる市にしたいです。
(パフォーマンス・アーティスト)



鎌仲ひとみ（映画監督）／上原公子（元国立市長）
山田真（小児科医）／雪子・F・グレイセング（作家）

普通に見える家庭の「格差の叫び」

共働き&低所得の我が家が格差を痛感したのが子どもの教育費。就学援助制度、高校受験用のチャレンジ支援金に大変助けられた。そのおかげで都立に受かってほっとしたが、私立に受かったとしても通わせられなかった。私立都立と選ぶ余地のないギリギリの暮らし。必要なものもなかなか買ってあげられない、いろんなことを体験させてあげたいと思ってなかなかできない、これが普通に見える家庭の『格差の叫び』だ。教育はとても大事。北欧のように大学まで教育費無料を少しずつでも実現できないだろうか。お金がないことで遠慮がちになっている我が家の子たちを見ていると、そう願わずにはいられない。

(MY 前原町)

児童虐待防止のために地域で連携しよう

少子化が社会問題となっているこの日本で、児童虐待件数は年間5万件を超え(2012年度厚労省調査)虐待等の理由で家庭で生活できない子どもたちは4万人にも及んでいます。施設退所者の多くは、退所後も親や家族を頼ることが出来ず、虐待のトラウマを抱え、低学歴といういくつかのハンディを背負われ、自立生活を余儀なくされています。アフターケア相談所「ゆずりは」では、児童養護施設等を自立退所した方々の相談支援事業を行っています。「ゆずりは」の活動を通じて地域の子育て支援団体やカエルハウスとも連携し、小金井が児童虐待防止への取り組みを先駆的に行うことを目指し、子育てする親そして全ての子どもたちにあたたかなまなざしを向けられるまちとなることを心から望みます。

(高橋亜美 アフターケア相談所「ゆずりは」所長)

子どももおとなも高齢者も障がい者も外国人も女性も男性もセクシュアルマイノリティーもお金があってもなくても、差別なく暮らせる社会にしたい。

親たちの声をネットワークで発信

3.11後、子どもたちを守りたいと各地でお母さんたちがつながり始めました。小金井では「子どもと未来を守る小金井会議」が発足、150名近い人がメーリングリストに参加し地道に情報交換や自治体交渉を行い、行政に市民の思いを届けることができました。また全国規模でも「子どもたちを放射能から守る全国ネットワーク」が立ち上がり、300を超す団体が活動の情報交換・拡散・連携をしています。こうした動きの中で危機感を持ったことは、命や未来に向き合う母性が欠落した社会システムです。つながりを大切にしながらあきらめず、地道に声をあげていくことが持続可能でやさしい社会をつくっていく原動力になると信じています。

(井寺喜香 本町)

こんな小金井にしたい!

「片山かおるといっしょにかえる小金井の会」「市民自治こがねい」では、みんなで知恵を出し合い、市政のあり方やまちづくりについて話し合っています。2年前の大震災、原発事故、政権交代、そして全国的に格差が広がる今の社会の中で、小金井でなにができるのか、市民ひとりひとりからの熱い思いをお届けします。

社会のあり方を変えていくためには、見せかけだけでない本当の意味での「市民参加」が必要だね!

平和憲法を守り、市民が動かす政治を!!

今の政治はどこか知らない所で決められて、上から抑えつけるように進んでいく、そんな風に僕は感じています。民主主義とは本来、様々な立場から様々な意見を反映させ最良の答えを出すプロセスに他ならず、市民の参加なしに民主主義は成立しないはず。最近では、国防軍なんてもっともらしい名前を付けて、戦争の出来る軍隊作りが急速に進んでいます。軍隊がなければ国土が守れないと言うのは嘘っぱち。まさに平和憲法が日本を守っています。争わない事こそ最大の国防。小金井生まれ小金井育ちの自分としては小金井市から、市民が参加し平和憲法を守る政治を実現し進めて欲しいと望みます。

(梶原虔十 29歳 非正規工場労働者)

原発事故で平和の大切さに改めて気がついた。原発は核廃棄物を産み出し莫大なお金が動き情報が操作され、人の心と生活を蝕む。人権と平和と民主主義を守ることは難しいけどいちばん大事なことです。

子どもたちに持続可能な未来を残すためにも、暮らしのあり方を見直し、環境への配慮が必要な時代だよ。

地域に親しく開く家づくり

私は小金井に十数年前に越えてきて、今は住宅の設計事務所を営んでいます。家を設計していると思うこと。日本の家が受け継いできた縁側の空間や、長い軒は、体験的にいいな一と感じています。家の内と外を“パキッ”と分断するのではなく“好い加減”につないでくれます。このつながりのスペースが、なにくわめ顔をしながら、四季を通して太陽光や雨風を絶妙にコントロールしてくれます。一方、新しい試みにも楽しいものもあります。屋根を使って太陽の熱を家の床下に取り入れるOMソーラーシステム。そして多摩地区の製材所で発生した木くずを燃料にするペレットストーブは、炎がこころまで(?)暖かくしてくれます。あとは地域とつながること。例えば私の仕事場は自宅の1階、通り側に大きな窓を設けています。この窓を通してご近所の方とあいさつを交わしたり、打ち合わせの様子が通りから垣間見えたり……。そんな些細なことの積み重ねが、地域に活気や親近感を作り出してくれるといいなあ。(島田貴史 しまだ設計室 前原町)

みんなで育みあう、シングルマザーのエコシェアハウスを

今若い人達の間で流行っているシェアハウス。古いアパートや一軒家を利用して、リビングやキッチンを共有し、ご飯を一緒に食べたり余分なモノは持たずに「分かち合う」日々は、お金をかけずにワイワイと楽しく暮らせます。こんな昔の長屋のような暮らしを、子育てハウスにして拡げたい。お互いに助け合い、夜遅くなくても安心して働ける環境、子ども同士も親も一緒に育み合う、昔懐かしい大家族の現代版。必要なものも貸し合ったり、コンポストや雨水枴を利用して畑で野菜を育てたり、屋根にはソーラー、できればリビングには暖炉もおいて、環境にもやさしい暮らしができます。地域にも開かれたハウスは、子どもも、大人も、きっと地域も元気にしてくれます。

(近藤波美 八王子市)

市民交流スペースカエルハウスの4年間

原発事故から2ヶ月半後、カエルハウス史上いちばん多くの参加者が集まった連続企画「今こそ知りたい!放射能・脱原発・自然エネルギー」の第1回目。漢人あきこさんから小金井の放射能測定室について話を聞いた後、参加者からは質問、疑問、不安、事故後の暮らしぶりなど、途切れることなく声が上がった。とくに小さな子どもを持つ親の心配は切実で、今でもあの夜の熱気は忘れられない。そして親同士が集まって気持ちを共有できる場や、行政に対して要望を伝えていく必要性を感じた。4年前に市民交流スペースとして始まったカエルハウス。会って話を聴き、言葉を交わして気持ちを分かち合うことの良さを実感している。ここが、もし誰かにとって何か始めるきっかけの場になれば、とてもうれしい。(岡崎裕貴 カエルハウス運営委員会共同代表 前原町)